

IN
クP
セO
ン子
タど
ーも
天気
気ツ
村ト
ワ

子どもたち自らが試行錯誤して学ぶ、
その姿を大切に



NPO子どもネットワークセンター 天気村

特定非営利活動法人
NPO子ども
ネットワークセンター
天気村

〒525-0033 草津市東草津1-1-15
TEL. (077) 564-7868
FAX. (077) 564-7868
●ホームページ
<http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>

●代表 山田 貴子



◀こんぺいとう自然保育園の野外活動の様子。自然の中で元気いっぱい

「子どもは遊ぶのが仕事」をモットーに、 野外活動中心の自由保育を実践

NPO子どもネットワークセンター天気村は、未来を担う子どもたちの健やかな成長を願って野外活動体験、障害のある子どもたちとの交流、小・中・高生のボランティア育成、まちづくりワークショップ、子育て支援のセミナー企画などさまざまな取り組みを行っています。

天気村が設立されたのは今から13年前。中学校で体育の教師をしていた山田貴子さんが、「自分の理想とする学校を作ろう」という思いから、教職を退いて作りあげました。そのきっかけとなったのは、周囲の目ばかり気にしている子どもたちの姿。「子どもたちの個性が消えていくんじゃないか」と気になり始め、このままではいけないと立ち上がったのが。山田さん自身も周りの価値観に影響されすぎてずっと窮屈な思いをしてきたので、同じ思いをこれからの子どもたちにさせたくないという気持ちが強く働いたといえます。

天気村はJR草津駅から歩いて15分ほど、天井川沿いの閑静な住宅街の中にあります。天気村の核となっているのは「地球が遊び場だ」をキャッチフレーズに、子どもたちをのびのびと育てる自由保育園『こんぺいとう自然保育園』。そして子育てに関する悩みをみんなで解消しようという「ファミリーサポート」です。こうした事業に対応して、中には宿泊施設やレッスン室・ギャラリー・喫茶店そして保育ルームなども整っており、子どもやお母さんたちのコミュニケーションの場になっています。

この日は、『こんぺいとう自然保育園』で週に3回行われている、2歳半以上の子どもを対象にした野外自然活動の体験取材しました。

天気村に集まった子どもたちはバスに乗り込んで、さあ出発！ お母さんとはしばしのお別れです。最初は泣きじゃく

る子もいるのですが、すぐに子どもたちは元気になります。毎回行くたびに楽しみにしている子どもがたくさんいるんです。

この日は、あいにくの雨だったので、大津の商店街へ行きました。普段は自然の中に飛び出してどんぐりを拾ったりしているそうです。

商店街の中の「遊遊館」というおもちゃの館で最初はおままごとをしたり、乗り物に乗ったり、子どもたちは自分の好きなことをして遊びます。その背景にあるのは「子どもは遊ぶのが仕事」という考え方。子どもの遊びが充実するという事は遊びを日常化させることである、という考えから、実際に子ども達の姿を写真やビデオに撮って記録し、子ども達の原体験を残しています。

こんぺいとう自然保育園の1日

●9:30

登園・朝のごあいさつ

月・水・金曜日は基本的にバスで野外活動に出かけます。お散歩ではありません。行き先は四季を満喫できるフィールドを天候と子どもの状態で朝に決定。それ以外の曜日はプレイルームで手作り工作、お絵かき、リズム体操、キッズ英語などを取り入れた多彩な保育。

●11:30

お弁当を豊かな自然の中でお腹いっぱい食べます。食べた後またいっぱい遊びます。帰る時間になったらバスに乗ります。

●13:30

天気村帰着

こんぺいとうハウスでお友達とたくさんのおもちゃで遊びます。

●15:00

お迎えの時間

おうちの方に1日の様子がよくわかるようにキラキラノートで連絡します。

◆こんぺいとう自然保育園◆ こんぺいとうクラス

- 対象年齢 …2歳半以上
- 内 容 …野外自然活動(環境学習)・地域交流・文化交流をあわせた自由保育。(月・水・金が野外保育です)
- 時 間 …9:30~15:00
- 月極保育料 …週2日~5日 16,000円~



▲ログハウス調の建物が目印の天気村



▲栗東市砥山公園で

子どもたちが自ら試行錯誤する姿勢を大切に

「子どもに帰るといふか、いっしょに遊んでいる感じ。半分はけがをさせないとかいうのも、もちろんあるんですけども」とスタッフの金井三加子さん。「10年前始めたことが、やっと今の時代に市民権を得たなという思いはあります」といふのは、事務局長の辻充子さん。スタッフの皆さんからは、天気村村長の山田さんと同じ熱い気持ちが伝わってきます。

子どもたちは商店街の中を整理させて歩いたりしません。好奇心の向くまま行きたい所に行かせてあげるのが、天気村のやり方です。「並んで歩いていたらおかしいなと思ってしまうんですよ。いろんな時にパッと思った時に、そっちに行ってしまうとか。まさにこんべいとうアメーバのように、いろいろと集団が動いていくんですよ。それが好きなんです。子どもにいろんな方面から見てもらいたいから。子どもたちは商店街の中で、いろんな大人の方に出会いますよね。性格も、職業もさまざまです。そういう人たちがそれぞれの立場からお話していただいて、自分というものをいろんなところから見てもらった中で、子どもたちに自分を見つめてほしいんです」といふ山田村長の思いがそこにはあります。

お昼休みはみんなでお弁当を食べます。みんなとても充実した顔で楽しそうです。その間にスタッフの方は、後でお母さんに報告する「キラキラノート」を書きあげます。

お弁当を食べ終わるとみんな、お弁当を食べていた下に敷いていたシートを持ち上げて、雨の振る中、ダツと外に飛び出しました。子どもたちは大はしゃぎです。雨の中をうれしそうに表情をして走りまわっています。

「天気村の名のごとく、その日のお天気によって行き先が違います。今日は雨が降っていましたがね。雨の日は雨の

中に入っていこう、晴れの日も晴れの日、風がピューッと吹いていたら、風の中に入っていこうかーという感じです」といふ山田村長。「五感を通して感じてもらいたいなと思うんです。そこに匂いがあったり、風に感触があったりということが心に響く。そういう体験が子どもには大切だと思うんです。

こうして、たくさん体験を終えて、バスは天気村に戻ってきます。お母さんたちが迎える中、子どもたちはみんな声を合わせて、元気いっぱいにあいさつします。「トン！マエ！ピッ！ありがとうございました。さようなら！」

子どもたちをうれしそうに迎えるお母さんたちに感想を聞いてみると、「こんべいとうに入って全然違いますね。いきなり人見知りしなくなりましたし、すごく活発になったし。何でもチャレンジするようになりました」「週3日間、午前中ず

っと外で遊ばせてもらうような所は他にありませんから」など、喜びの声が次々にあがってきました。

「聞いたことは忘れる。見たことは覚える。したことは分かる。気づいたことは使える。

この言葉は、山田さんご自身がこの活動を通して感じてきた、子どもたちへの感想だそうです。「こんべいとう」の活動の根本にあるのは「決して仕組まない、ということ。子どもたち自らが試行錯誤して学んでいく、その姿を大切にしていく」といいます。「寄り添ってあげる教育」といふか活動なんだそうです。今までの教育に疑問を感じ、なかつたら自分で作るという、第一歩を踏み出しているのが山田さんのすごいところ。これからも、ネットワークを広げながら、つるつるになりそうな子の「とんがり」を取り戻して、元気なこんべいとうに育てていきます。

Readers Eye

ひとつずつ色も形も違う、そして突起が出ているこんべいとう。そんなこんべいとうのように、よきによき角を出してもらいたいな。

山田 貴子さん

こんべいとう自然保育園で野外活動にでかけるとき、バスの運転手をしているのが天気村の村長、山田さんです。

「もともと私自身がずっとレールにはまった人間でした。教師になりたかったんですけど、その時代その時代にしたいことを、教師になりたいがために押さえてきた部分があって。それで、その時代を忘れてしまったところがあるんですよ。今の子どもたちには、そういう思いをさせたくなかったんです」

この野外自然体験の活動には「こんべいとう」という名前が付けられています。その名前には山田さんのこんな思いがあるからなんです。

「こんべいとうには突起がありますよね。あの一つつがやってみたくとか、してみたくとか。こんべいとうはひとつひとつ色も違いますし、形も違います。そんなイメージで今子ど

もを見てみると、子どもをパッと見たときにトゲトゲがすでに削られている感じがするんです。表情が少なかったり、抑えこまれてる子がいるんですよ。その子に会ったときには、はじけてもらいたいなと、角をよきによきと出してもらいたいなと思って、色んな方面から角を出すようなきかけづくりをしているんです」

そんな山田さんの思いを胸いっぱい受け取って、子どもたちは今日も元気に、何か新しい発見が待つ世界へと旅立っていきます。



▲「こんべいとうのような子どものトゲトゲを大切にしたい」という思いで運営に携わる、村長の山田貴子さん